

スポーツ指導に携わる方に読んでいただきたい

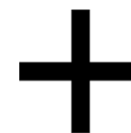
障害のある方への スポーツ指導・関わり方 入門ハンドブック

－パラスポーツが持つ可能性－



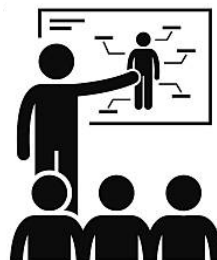
本ハンドブックで学ぶことのできる内容

- ・ 障害種に関する知識
- ・ 様々な障害種の特徴を踏まえた指導のコツ・ポイント



- ・ 指導者の心構え

指導技術を支える指導者が持つべき心構え



- ・ スポーツをいかに楽しんでもらえるか
- ・ 指導を受ける方の特徴に応じたコミュニケーション方法を意識

この心構えは、パラスポーツのみならず、
**トップアスリートから一般の方、子ども、高齢者まで、
すべての方への運動・スポーツの指導に共通する重要要素**

「障害のある方へのスポーツ指導・関わり方 入門ハンドブック」 の活用状況について

1 これまでの周知状況

○ 事務連絡（研修等への活用の要請／研修の様子取材の協力依頼）

地方公共団体（スポーツ分野）	都道府県・政令市 スポーツ担当課、パラスポーツ担当課
地方公共団体（教育分野）	都道府県・政令市 教育委員会事務局
スポーツ関係団体	日本スポーツ協会、日本パラスポーツ協会、日本スポーツ施設協会、日本フィットネス協会、健康・体力づくり事業財団（健康運動指導士関係）
大学関係	全国体育系大学学長・学部長会
医療関係	日本医師会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本義肢装具士協会、日本言語聴覚士協会、日本視能訓練士協会、日本リハビリテーション医学会

○ 講演等による周知

- ・ 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会（R6.11.16～17）
- ・ 持続可能な国際競技力向上のための施策に関する評価検討委員会（R6.12.23）
- ・ 日本スポーツ会議（R7.1.20）
- ・ 全国体育系大学学長・学部長会総会（R7.5.23）

2 今後の活用について

- ・ 令和7年度は、様々な実施主体における、本ハンドブックを活用した研修等の実施を促し、**当該研修等の事例集を作成。**
- ・ 現在、**約10団体（地方公共団体（スポーツ担当課、教育委員会）、障害者スポーツ協会、大学、医療機関、企業）と、**
研修実施・取材を調整中。